発行：福生市生活環境部
協働推進課

❖男女共同参画情報誌❖

あなたとわたし

vol.38
2012.3月号

手をつなぎ　足もとしっかり　良い社会

災害と支援

助け合う心 ～女性の立場から考える～

目の不自由な方への情報ツールとして開発された二次元シンボル「ＳＰコード」を掲載しています。
専用の読み取り装置を使って、**今号の内容を要約した文字情報**を音声で聞くことが出来ます。
専用の読み取り装置は市内の公共施設９か所に設置しています。くわしくは協働推進課へお問合せください。

平成23年3月11日に起きた東日本大震災は、想像をはるかに超える大津波、連続する余震や原発事故による放射能への不安など、私たちの日常生活に大きな衝撃を与える出来事でした。
また、今なお困難な生活を強いられている方がたくさんいらっしゃいます。
こうした中で私たちに何ができるのか、何をすればよいのか？
今回は、被災地へ行き支援活動をされたお二人の方に活動の体験とその時に感じたこと、さらに女性としての視点も含め伺いました。

福生青年会議所
品川真理さん

支援活動について

私が参加させていただいた被災地支援は、福生青年会議所を通じて行っています。日本全国に広がる青年会議所の組織力やネットワークを活かしながら現地の状況を把握し、早い段階から支援活動をスタートすることができました。

参加した活動としては、

- 3月21～24日　福生青年会議所事務局にて一般の方からの支援物資の受入れ
- 3月24日　福生駅にて街頭募金（募金額266,022円を加藤市長に手渡しました。）
- 6月4日　宮城県亘理高校にて炊き出し
- 8月6～7日　福生七夕まつりにて宮城県亘理町の避難所で生まれた「にんにく醤油の焼きおにぎり」や宮城・福島の物産を販売
- 9月11日　宮城県岩沼市で行われた復興イベントに参加し、福生ドッグを販売。(8月の七夕まつりの売上金と福生ドッグの売上金を亘理町の小学校へ寄付)

現地の様子

6月に初めて現地へ行った時には、避難所の周りではあまり気が付きませんでしたが、少し海の方へ行くと津波の被害の大きさを目の当たりにし、凄まじい量のがれきが山積みにされていました。(9月に行ったときもそのままでした。)現地を見て、災害時には的確かつ迅速な情報の提供、平等な支援（支援の公平性）がとても重要だと感じました。

女性として

女性である私が他の男性メンバーと同じ行程をこなせるのか、体力面で非常に不安でした。しかし少しでも何かしたいという気持ちと、一人の日本人として現地を知らなければならないという強い思いで参加しました。宮城県亘理高校でとろろそばの炊き出しを行い、多くの人にパワーを届けることができたと思っています。

3月の支援物資の受入れでは、例えば女性が生理用品を持ってきた場合、受入れ側にも女性がいると渡しやすいのではないかと感じました。

間もなく1年が経とうとしています。あの時に感じた復興への思いをもう一度思い起こし、今後も支援活動を続けていくことが大切だと思います。

支援活動をされた二人のお話しから…　編集員で日頃の備えや心構えについて考えました

非常持出品の見直し

- 下着・生理用品・化粧品・マスクを追加しました。
- カセットコンロ・テント・寝袋・七輪は、非常持出品とは別に、車や倉庫などに置きました。
- 幼児がいるので、オムツ、ウェットティッシュ、母乳パッド、ベビーフード、消毒用アルコールなどを用意しました。

避難所生活について

授乳や着替えなどのための女性のプライベートスペースの必要性を強く感じました。

今後の防災のポイント

防災分野はまだまだ女性の参画が進んでいないので、女性も積極的に地域活動リーダーを引き受けるなど、できることから始めようと思いました。

また、近所や地域の人達と顔見知りであることや、それぞれの立場はあっても、人と人とのつながりを大切にすることも防災の一つだと感じました。

公立福生病院
看護師　戸田幸子さん

東京都医師会が主催し、東京都福祉保健局が担当する「東北地方太平洋沖地震に伴う医療救護班派遣」への要請があり、公立福生病院から小児科医師、事務職（ロジスティック職）、看護師である私の３名が３月23日から27日まで宮城県気仙沼市に災害救護派遣されました。

実際の活動内容

派遣中は朝６時に一関の宿泊所を救急車で出発し、当時1,500名の方が避難されていた市民体育館で活動しました。

体育館内に設けられた診療所での診察介助や看護処置、市民病院への救急搬送をする一方で、同行した小児科医とフロアを回り、避難されている方々のお話を聴きながら、体調の悪い方の把握をし、不足している生活用品を届けました。

また、当初２日間は、教員資格と子ども指導員の資格があることから子ども達の担当をするように依頼され、子ども用のインフルエンザ感染防止プログラムなどをボランティアの中・高校生の協力を得て行うとともに、そのなかで持参した紙芝居の読み聞かせを取り入れました。

災害支援で感じたこと

これまで３回の災害支援で感じたことは、

- 危機感を持って災害に備えること
- 支援する側、支援される側にもリーダーの存在が重要であるということ

というのは町内会単位で避難されているブースも多く、その中でリーダー役をうまく務めている方がいると、支援物資が滞りなく配給され、助け合い・協力体制が取れており、日頃からの近所付き合いの大切さを感じたからです。

支援のさまざまなあり方

12月に予備自衛官の仲間たちと福島市の小学校の校庭や通学路の除染ボランティアに参加しましたが、若い女性や夫婦の方が東京、埼玉から参加されていました。しかし、災害支援は現地に赴くことだけではないと思いました。都内の避難所では、心温まる激励のメッセージの付いた支援物資を度々見掛けました。

また、私たちが住む地域で避難生活を送られている方々を地域のイベントにご招待したり、被災地の品物を購入するなど側面的に復興の応援をすることも大切だと感じました。

女性への支援

医療では、派遣中に女性外来が開設されました。一方で被災から３週間目に入っていましたが、支援物資に女性用の下着がなく、下着を一度も取り換えてないと聞きました。

そして避難所には授乳や清拭のためのプライベートスペースも必要であり、支援物資の選定をはじめ、避難所に女性の意見が届くことが必要だと感じました。

震災をふりかえって

これまで当たり前のように使用していた電気など限られた資源の恩恵が、危険と隣合わせにあったことを振り返り、資源を大切にしたいと思います。

そして、震災で失った多くの尊い犠牲を決して無駄にすることなく、震災の備えとともに子孫に語り伝えていく。震災や被災された方々のことを忘れず支え合っていくことが大切なことではないかと思います。

目の不自由な方への情報ツールとして開発された二次元シンボル「ＳＰコード」を掲載しています。専用の読み取り装置を使って、**４面記事コラム「知ってますか防災対策」**の文字情報を音声で聞くことができます。専用の読み取り装置は市内の公共施設９か所に設置しています。くわしくは協働推進課へお問合せください。

知ってますか防災対策

～防災インフォメーション～

避難場所は「防災マップ・洪水ハザードマップ」で確認しておきましょう

市では、地震による災害が発生した際にどこに避難したらよいかなどの情報をまとめた防災マップと、多摩川が氾濫した場合にどのような被害が出るかをまとめた洪水ハザードマップがあります。
また、非常持ち出し品や、多摩直下地震による福生市の地震の被害想定、風水害情報のポイントなどの災害関係情報も載っています。市ホームページからダウンロードできます。
※詳しくは安全安心まちづくり課防災係へ
☎042-551-1638

ワンポイント

備えておきたいもの

- ●食料と水
- ●医療品（例：傷薬、消毒液、包帯、生理用品、胃腸薬、整腸薬、鎮痛剤、目薬など）
- ●応急活動用品（例：ラジオ、懐中電灯、マッチ、ティッシュ、タオル、ロープなど）
- ●貴重品（例：現金、印鑑、通帳など）

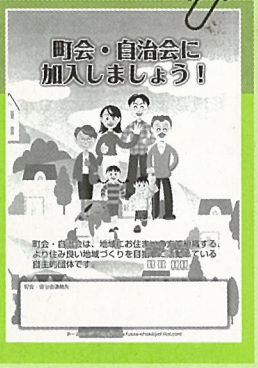
ご家庭で

普段から家庭で「火の始末をする係」「高齢者の安全確保をする係」「持ち出す荷物の分担」など家族の役割や、連絡方法、避難場所などを話し合い、確認しておきましょう。

住宅の耐震化の支援を行っています

市では個人住宅の耐震化を支援しています。
まず自分の家の耐震性を調べてみませんか？
【対象】**昭和56年以前に建築された個人の木造住宅**
【内容】
①**簡易耐震診断**（無料、電話予約）
→問合せ先：施設課建築グループ　☎042-551-1972
②**耐震診断費用の一部助成**
（診断機関による耐震診断費用の一部を助成します。）
③**耐震改修費用の一部助成**（耐震診断の結果、耐震改修が必要と診断され、耐震改修を行う場合、耐震改修に要する費用の一部を助成します。）
②③については、助成の対象となる条件があります。
②③問合せ先↓
まちづくり計画課計画グループ☎042-551-1952

町会・自治会に加入しましょう！！



親睦を図りながら、地域の“絆”を育み、より住みよい地域づくりを目指して活動しています。
※問合せ先：協働推進課へ
☎042-551-1590

ご存知ですか？男女共同参画情報コーナー

輝き市民サポートセンター（福生駅西口プチギャラリー４階）に各区市町村の情報誌や男女共同参画に関する資料を備えています。ご利用ください。
問合せ：輝き市民サポートセンター　電話042-551-0166

市民編集員募集中

「あなたとわたし」の編集員を募集しています。興味のある方は、協働推進課までご連絡ください。

ご意見・ご要望をお気軽にお寄せください。

本誌は、市民がつくる市民のための情報誌です。感想をはじめ、特集で取り上げてほしいテーマなど、ご意見・ご要望をお気軽にお寄せください。市ホームページ（トップページ左側の市民のご意見箱）からもお送りいただけます。

広告掲載スペース

市民編集員　○輿水和代　○寺﨑敏枝　○濱原幸恵
企画編集　NPO法人 NAFA子育て環境支援センター

あなたとわたし vol.38　2012年３月号
発行：福生市 生活環境部 協働推進課
〒197-8501 東京都福生市本町５番地　電話042-551-1590
http://www.city.fussa.tokyo.jp/